



事業実施内容

①現状・ニーズ調査

スリランカにおいて花卉・葉物がどのように出荷されているか調査。また、ニーズ及び現在の費用等について現地業者にヒアリングを実施。

②鮮度維持装置（Inazumaシステム）によるコンテナ輸送実証

日本から持ち込んだ鮮度維持装置を20ftコンテナに設置し、スリランカから花卉・葉物を輸送。日本に到着後、見た目の変化及び鮮度維持の状態を確認し、鮮度維持ができているものの割合を検証。

③輸送費用削減効果の検証

上記の実証が終了した時点で、費用及び発生したロス进行計算し、航空便を使用した場合比較し実際に削減された金額を算出。

④日本側でのヒアリング調査

仲卸業者に日本に到着後の花卉・葉物の状態を確認して頂き、鮮度保持や品質についてヒアリング。



現地生産者へのプレゼン



鮮度維持装置設置



コンテナ開封時の状態



事業成果

スリランカから出荷後約1ヶ月後に日本に到着。通関手続きで書類の不備があり、到着から写真撮影まで5日経ったため多少乾燥していましたが、鮮度維持システムの技術的効果は認められました。

- ・今回の輸送時にリーファーコンテナ内の換気扇により風があたり上部の箱のものに特に乾燥が見られました。
- ・今回の輸送では通関手続きと乾燥により約10%のロスが見られましたが、今後はIoTを活用した湿度コントロールなどによりロスを1~2%まで下げることができる見込みです。

鮮度維持装置は国内では保管の実績があったことから、すでに鮮度維持の実証はできていましたが、コンテナ海上輸送での実績はありませんでした。また本システムのような鮮度維持技術はスリランカでは知られていないことから、今後の現地におけるシステムの事業展開のためには、顧客に実証を通じて効果を見せる必要がありました。本事業により、海上輸送時のInazumaの鮮度維持効果が確認できたとともに、今後の改善につながる課題が確認できました。

事業の進捗

事業終了後、2023年に再度実証を行いました。SOCコンテナの通関手続きを請け負ってくれる会社が見つからず難航いたしました。スリランカから出荷後、3ヶ月以上経過していたため、花卉・葉物は全て廃棄処分する結果となりました。現在チャイナオーシャンとSOCコンテナの提携について検討中。